

社会福祉特別演習 I

担当教員 山住 賢司

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業研究に先立つ演習であり、4年次での卒業研究論文作成に必要な情報収集や基礎的技術を習得することを目的とする。

【授業の展開計画】

卒業論文の進め方を理解するため「よくわかる卒論の書き方」をテキストとし、各章の輪読並びに解説を行う。また、心理学における領域の広さや研究方法について理解するために、「心理学を変えた40の研究」 FORTY STUDIES THAT CHANGED PSYCHOLOGY 4th Edition (R. Hock, 2002) から、担当章を決めて各人でレジюмеを作成・発表を行なう。

週	授 業 の 内 容
1	プレゼミに関するガイダンス
2	卒業研究に向けてのスケジュール作成
3	卒論とは何か
4	ゼミでの学び方
5	論文の書き方
6	卒論テーマについて
7	文献購読発表(1)「心理学を変えた40の研究」よりテーマを選択
8	文献購読発表(2)「心理学を変えた40の研究」よりテーマを選択
9	文献購読発表(3)「心理学を変えた40の研究」よりテーマを選択
10	パソコンを用いた図表の作成法
11	文献の集め方
12	先行研究の読み方
13	研究テーマの深め方
14	研究の倫理について
15	研究計画書の書き方

【履修上の注意事項】

ゼミでは各人の積極的な参加姿勢が求められる。
事前学習としてテキスト・配布資料等の確認を行い、各回の内容についてはゼミ終了後必ず確認を行うこと。

【評価方法】

ゼミでの発表内容等を考慮し総合的に評価する。

【テキスト】

「よくわかる卒論の書き方[第2版]」 白井利明・高橋一郎（著） ミネルヴァ書房 2013

【参考文献】

「改訂新版 心理学論文の書き方」 松井豊（著） 河出書房新社 2010

社会福祉特別演習 I

担当教員 吉岡 久美

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

論文の書き方を理解し、文献の検索方法と文章の読み方について学び、研究論文の方法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	論文とはどのようなものか、参考資料をもとに知る。
2	文章を読み、その構成を学ぶ。
3	興味のある分野の図書をもとに説明し、自分の考えをまとめる能力を得る。
4	提示した資料を要約する方法を理解し、実践する。
5	自らの要約を振り返って説明し、グループでディスカッションする。
6	文献検索の方法を再確認し、文献（図書）を探してみる。
7	1つの文献（図書）の一部を全員で読み、その意味を考える。
8	学術論文を検索する。
9	学術論文を読み、論文の構成等を理解する。
10	自ら検索して得られた学術論文を要約する。
11	興味ある分野の図書や学術論文を探索する。
12	興味のあるキーワードの抽出とその構成を考える。
13	興味ある事柄に仮説を立て、立証する方法を考える。
14	仮説に対する賛成論、反対論を自分で述べてみることで、自らの考えを知る。
15	研究デザインについて学び、仮説を立証するための研究デザインを考える。

【履修上の注意事項】

演習前には、次回の予定を確認して文献のまとめや分担された範囲の要約をしておくこと。
演習後は、指導内容を振り返り、まとめなおしをすること。

【評価方法】

積極性、協調性、独自性を重視する。課題の提出50%、取組み50%で評価する。

【テキスト】

指定なし

【参考文献】

澤田昭夫：論文の書き方．講談社学術文庫

社会福祉特別演習 I

担当教員 隈 直子

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

特別演習 I では、卒業研究論文作成を念頭に、研究テーマを見出し、基礎的な知識を身につけることを目的とする。

自分で文献・論文の検索ができ、レポート作成やグループ発表の能力を高める。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 図書館の活用、文献検索
- 3 各人の関心領域、問題意識についてディスカッション
- 4 論文の構成について学ぶ
- 5 提示した図書をもとに報告資料の作成方法を学ぶ
- 6 一つの図書を全員で読み、内容を要約する。
- 7 一つの図書について、担当者が報告し、ディスカッション (2名)
- 8 一つの図書について、担当者が報告し、ディスカッション (2名)
- 9 各人の関心に合った論文を検索する。
- 10 各人の選んだ学術論文を要約する。
- 11 各自で選んだ論文について報告し、グループディスカッション
- 12 各自で選んだ論文について報告し、グループディスカッション
- 13 各自で選んだ論文について報告し、グループディスカッション
- 14 関心ある事柄について資料収集を行う。
- 15 資料を要約して報告し、夏季休暇中の課題を整理する。

【履修上の注意事項】

積極的に議論に参加することが望ましい。予習復習を行い、課題に対し主体的に取り組むこと。

【評価方法】

報告内容・レポート内容50%、ゼミへの参加態度・意欲50%で評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会福祉特別演習 I

担当教員 平川 泰士

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

「障害」のある人々が、自身の望む普通の生活を実現するために、障害福祉の基本理念をもとに、考察し、制度・施

策、ソーシャルワークのあり方を検討することができるようになる。これらを検討するための基盤となる文献探

索、整理、検討方法などの知識・手法を身につけることができる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション（演習の運営方針、年間予定等について）
2. 研究の目的、意義の理解
3. 社会福祉研究の分野と範囲（研究領域の理解）
4. 社会福祉研究の分野と範囲（障害福祉に関連する理念）
5. 社会福祉研究の分野と範囲（障害福祉の対象に関する理解）
6. 社会福祉研究の分野と範囲（実践理論の理解）
7. 先行研究の目的と意義
8. 資料探索法（資料の検索方法、資源について）
9. 資料探索法（図書館の活用方法について）
10. 資料探索法（公的機関、Webからの収集について）
11. 文献検討（障害児者福祉に関する文献収集）
12. 文献検討（文献に対するレジュメ作成）
13. 文献検討（障害児者福祉に関する文献輪読）
14. 文献検討（収集文献の報告）
15. 文献検討（プレゼンテーション）

【履修上の注意事項】

指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】

講義への参加状況（30%）、報告内容（30%）、課題の事前・事後学習（40%）をもとに評価を行う。

【テキスト】

別途指定

【参考文献】

別途指定

社会福祉特別演習 I

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生活を営む上で「福祉」は欠かせない。現在の社会福祉・介護福祉の状況に興味を持ち、幅広い視点で考えることができる力を身につけることができる。

先行研究と向き合い、他者と語り、自分に問うことができる、専門職者を目指し、探究できる人財になることができる。

そのために、この科目ではまず卒業論文の作成に関する基礎知識・方法論の習得をはかる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	研究とは何かを考える
3	研究の基本的な考え方①
4	研究の基本的な考え方②
5	社会福祉研究の分野と範囲①
6	社会福祉研究の分野と範囲②
7	研究計画の立て方①（基本的な考え方）
8	研究計画の立て方②（事例を参考にみる）
9	研究計画の立案①
10	研究計画の立案②
11	研究文献の読み方①（先行研究の調べ方）
12	研究文献の読み方②（先行研究の評価）
13	研究文献の読み方③（先行研究の整理とレジюмеづくり）
14	先行研究の調査①
15	先行研究の調査②

【履修上の注意事項】

主体的にゼミ活動に取り組むこと。報告・連絡・相談を行うこと。問題意識を持って授業に臨むこと。

他者（他のゼミ生など）の意見や考えに関心を持ち、自分の研究テーマや進捗状況と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

途中経過報告・課題担当発表・ゼミの活動状況等：70%

レポート提出：30%

【テキスト】

別途指示

【参考文献】

別途指示

社会福祉特別演習 I

担当教員 豊田 保

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

研究課題の選定方法、先行研究の検索方法、研究方法論、研究内容の発表方法について理解し、実際に展開できるようにする。

【授業の展開計画】

研究テーマの選定、研究の方法、研究成果の発表方法について理解し、実践できるようになること。

週	授 業 の 内 容
1	研究課題とは何かを社会の在り方との関係で考える (90分×3回)
2	自らの研究課題について発表する (90分×4回)
3	研究の方法について学習する (90分×3回)
4	研究内容の発表方法について学習する (90分×3回)
5	論文の書き方について理解する (90分×2回)
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

ゼミ運営に積極的に関与し、必要な役割を担うこと。
自分の研究テーマを見出し、自ら研究を進める姿勢を持つこと。
先行研究を積極的に学習すること。

【評価方法】

ゼミ運営への貢献度、発言内容、研究状況によって評価する。

【テキスト】

授業開始時と必要に応じて提示する。

【参考文献】

授業開始時と必要に応じて提示する。

社会福祉特別演習 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日ごろのレポートはもとより、社会福祉学科における学生生活の総決算である卒業研究論文を納得のいく内容で書くことができるように、指導（事前準備）を行なう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文章を書くとは
2	文章は自分の意見や考え、提言を伝える手段
3	文章が上手になる方法
4	レポートとは
5	卒業研究論文とは
6	原稿用紙はこう使う
7	執筆にあたって
8	執筆のルール
9	記号などの用い方
10	文献および統計・図表の引用法
11	文章の推敲
12	パソコンの活用法
13	福祉の一般用語
14	福祉の専門用語
15	卒業研究論文の書き方の総括

【履修上の注意事項】

授業前にキーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

発表30%、レポート70%で評価する。

【テキスト】

本年度はとくに使用せず、授業の際にプリントや資料を配付する。

【参考文献】

各回の授業の際に紹介する。

社会福祉特別演習 I

担当教員 西島 衛治

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業研究の前段階としての心構えや論文の独創性や論理性の重要性を踏まえた論文執筆の基礎を学習し演習を行う。

【授業の展開計画】

論文の基本を身に着ける。特に、引用文献や参考文献の使い方を学び、論文内容の客観性を求める。外部調査の演習やアンケート調査の予備段階を体験する。インタビュー調査の方法も学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	レポートと論文との違い
2	執筆の決まりを知る
3	社会福祉の学習方法を考える
4	ITの活用を考える
5	C I N I Iによる紀要研究の論文を検索する
6	レポートの書き方
7	各種レポートの書き方
8	論文テーマの選び方
9	既往の論文や資料の収集方法
10	既往の論文や資料の活用方法
11	調査、社会実験、観察（量的研究と質的研究）
12	アンケート調査（量的研究方法）
13	インタビュー（質的研究の方法）
14	論文の構成
15	プレゼンテーション（作成と発表の仕方）

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する（120分）【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。（120分）【その他のアドバイス】講義の中でノートの作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

予習・復習の自主的学習態度の確認、出席状況、課題作成、質疑応答状況

【テキスト】

川村著「改訂福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方」中央法規2013など

【参考文献】

山田剛史他「大学生のためのリサーチリテラシー入門」ミネルヴァ書房

社会福祉特別演習 I

担当教員 森 信之

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

卒業研究に向けて、研究とはなにか、論文とはなにか、という基礎を理解したうえで、卒業研究において必要となる情報収集やデータの整理、そして文献のクリティカル・リーディングができるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第10回 論文輪読
 - 第11回 研究・論文について
 - 第12回 情報収集・整理の手法について
 - 第13回 図書館の利用・論文検索
 - 第14回 研究討論・論理的思考について
 - 第15回 総括・夏季休暇中の計画

【履修上の注意事項】

ゼミに出席するだけでなく、討論に参加できるくらい、事前に論文を読み込んでおくこと。また、ゼミで指摘された事については、次回までに調べて解決しておくこと。

【評価方法】

ゼミでの議論における積極性、発言の的確性、論理性、また、担当発表における要約力、表現力などを総合的に判断し評価する。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じ、プリントを配布。

【参考文献】

適宜、紹介する。

社会福祉特別演習 I

担当教員 李 玄玉

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

1. 自閉症・ADHD（注意欠陥多動性）・アスペルガ障害・学習障害（LD）・高機能自閉症など
発達障害児への理解、治療教育、支援に関わる領域や障害児の親、兄弟、家族の問題と支援に関する領域
また、不登校に関する領域について概説したのち、自分の関心領域について情報を収集する。
2. 関連文献を収集・整理し、各テーマに内包されている障害児への教育・治療への社会的課題を先行研究から把握し、障害児への支援について理解を深める。

【授業の展開計画】

- 1回； 導入。 演習計画の確認
- 2回～3回； 発達障害、発達障害児に関する研究領域や研究動向について概説する。
- 7回～14回； 各自、関心のある障害の領域や学習分野を決定し、それぞれ自分の分野について先行研究文献を収集、自分なりのテーマに沿ってレジメを作成する。
それを順次、発表とディスカッションする。
- 15回； まとめと総合ディスカッション

【履修上の注意事項】

- 特になし。

【評価方法】

発表40%、レジメやレポート20%、発言20%、研究計画20%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

特に、指定しない。

【参考文献】

各自のテーマに関連するもの個々に紹介する。

社会福祉特別演習 I

担当教員 永田 俊明

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、卒業研究論文作成に向けた基礎知識並びに技術の習得にある。したがって、2年間で大学4年間の知識や技術の集大成としての論文を如何に考え、作成していくのかを集団ないしは個別に指導していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーションとスケジュール作成について
2	論文構成 (1) スケジュールの立て方、一般的論文構成
3	論文構成 (2) 全体構成と文体
4	論文構成 (3) 用語について、図表の書き方
5	表題と「はじめに」について
6	目次・要約・研究史
7	研究史から目的までと引用の注意点
8	目的の構成、テーマの意義、仮説などの設定
9	方法 (1) 全般的な注意点と概略
10	方法 (2) 有効データ、自由記述のまとめ方
11	方法 (3) 単純集計、尺度分析、変数間関連
12	方法 (4) 検定結果の記述、多変量解析
13	考察 (1) 全体的注意点、理論的位置づけ
14	考察 (2) 結果の概略、結論
15	最後の仕上げ 引用・参考文献、資料・付表

【履修上の注意事項】

事前準備学習として科学的研究方法について、知識を深めておくこと。

【評価方法】

レポート 85% 演習発表 15% 100点満点評価

【テキスト】

未使用

【参考文献】

随時紹介

社会福祉特別演習 I

担当教員 山本 孝司

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

卒業研究論文執筆のための基礎を身につける。興味・関心に従った調査、先行研究についての理解、問題意識の明確化、論文作成の作法についての理解を通して論文執筆の力量をもつことができる。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～5回 各人の興味・関心のあるテーマに関する発表
- 第6～10回 各人の興味・関心のあるテーマに関する調査
- 第11～13回 論文作法について学ぶ
- 第14回～15回 各人、今後の作業の見通しを立てる

【履修上の注意事項】

問題意識をもつこと。社会に向けてアンテナを拡げること。
事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

各人が設定する課題のほか、教員側からレポートを課す。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

社会福祉特別演習 I

担当教員 河谷 はるみ

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門的な論文を読みこなした後、自分で課題を見つけ、問題意識を持ち、それを理論的に考えることができる。他大学との合同ゼミ合宿を通して、ディスカッション能力を高めることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	論文とは何か（論文の4要素について）
3	文献検索指導（図書館）
4	文献検索のまとめ
5	論文レジュメの書き方について
6	論文レジュメ報告・質疑応答（グループ発表）
7	論文レジュメ報告・質疑応答（個別発表）
8	論文レジュメ中間報告会
9	合同ゼミ合宿について（課題設定、発表レジュメ指導）
10	合同ゼミ合宿について（プレゼンテーション指導）
11	発表レジュメ報告・質疑応答（個別発表）
12	発表レジュメ報告・質疑応答（個別発表）
13	発表レジュメ報告・質疑応答（個別発表）
14	合同ゼミ合宿準備（レジュメ完成、製本作業）
15	特別演習 I の総括

【履修上の注意事項】

- (1) 自分で課題を見つけ、問題意識を持ち、理論的に考えること。
- (2) 予習をして授業に臨み、授業後は、復習をすること。

【評価方法】

レジュメ報告 70%、取り組み姿勢 30%

【テキスト】

特に指定しない。自分のテーマに沿って、文献検索をすること。

【参考文献】

適宜、紹介する。

社会福祉特別演習 I

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

こころの健康問題により生活のしづらさを抱える人々に対する援助方法や支援者の抱える困難さなどを探求する。本演習を通じて、卒業論文の作成に関する基礎的な知識・方法論を身につけるとともに、「メンタルヘルスソーシャルワーカーとは何か？」について自分の言葉で説明できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（全体の鳥瞰の説明など）
2	社会福祉研究とは何か？（社会福祉のターゲットの確認と研究すること）
3	社会福祉研究の分野と範囲①（社会福祉研究の具体的範囲）
4	社会福祉研究の分野と範囲②（社会福祉研究における理論研究と実証研究）
5	社会福祉研究の特徴①（現実世界をターゲットとした社会福祉研究）
6	社会福祉研究の特徴②（価値や倫理をターゲットとした社会福祉研究）
7	社会福祉研究の特徴③（実践分析・評価をターゲットとした社会福祉研究）
8	社会福祉研究の特徴④（社会的マイノリティ・アウトサイダーをターゲットとした社会福祉研究）
9	社会福祉研究の特徴⑤（時間的経過・パラダイム転換をターゲットとした社会福祉研究）
10	ソーシャルワーカーのキャリア①（新人～中堅者までの成長とディレンマ）
11	ソーシャルワーカーのキャリア②（中堅者以降のキャリアとディレンマ）
12	研究レビューの必要性（目的と意義）・研究文献の探し方
13	研究文献の読み方①（先行研究の評価・先行研究に対する批判的考察）
14	研究文献の読み方②（先行研究の整理・レジュメづくり）
15	研究の倫理

【履修上の注意事項】

自分の発言に責任を持って行動すること。報告・連絡・相談を行い、主体的にゼミ活動に取り組むこと。配布された参考文献などの資料について事前に一読し、問題意識を持って授業に臨むこと。また、他のゼミ生の研究内容にも関心を持ち、授業後に自身の研究テーマや現在の進捗と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

途中経過報告・担当発表・ゼミ活動内の相互批判的考察：70%，レポート：30%

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献】

高木邦明ほか編『障害者福祉の研究課題と方法』2007，学文社
岩田正美ほか編『社会福祉研究法—現実世界に迫る14レッスン—』2006，有斐閣

社会福祉特別演習 I

担当教員 水間 宗幸

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

卒業研究論文執筆を前提にした、論文の読み方、文献収集の方法、テーマの設定を理解することができる。

【授業の展開計画】

主な指導内容

自分の興味関心の確認
文献の探し方
文献、論文の読み方
文献、論文のまとめ方

これらをディスカッションを交えて習得できるよう指導する。

【履修上の注意事項】

各自、自覚を持って取り組むこと

【評価方法】

態度80%、課題20%で評価を行う。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

適宜紹介する

社会福祉特別演習 I

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 3年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会生活における様々な社会問題に関心を持ち、福祉的な立場から問題意識を持ち、深めることができる。論文の書き方を理解し、文献の検索方法、読み方を理解することができる。社会福祉研究の方法などを理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、研究とはどのようなものか説明する
2	研究方法の理解①研究についての概要を説明する
3	研究方法の理解②文献検索について説明し、文献検索サイトを活用し文献検索を行う
4	研究方法の理解③文献整理について説明する
5	研究方法の理解④文献研究について説明する
6	研究方法の理解⑤研究レビューについて説明し、レビュー文献を音読する
7	研究方法の理解⑥量的調査の概要について説明する
8	研究方法の理解⑦量的調査の倫理的配慮や調査票作成について説明する
9	研究方法の理解⑧量的調査のデータ分析について説明し、量的調査研究の文献を音読する
10	研究方法の理解⑨質的調査の観察法について説明し、観察法に基づく文献を音読する
11	研究方法の理解⑩質的調査の面接法について説明し、面接法に基づく文献を音読する
12	研究方法の理解⑪質的調査の分析法について説明する（BS法、KJ法、M-GTA）
13	研究方法の理解⑫質的調査の分析法を行う（BS法、KJ法）
14	研究テーマについて説明し研究テーマの選定を行う
15	研究テーマおよび目的について説明する

【履修上の注意事項】

報告・連絡・相談・確認を行い、自らの発言や行動に責任を持ち、積極的にゼミ活動に取り組むこと。事前に与えられた参考文献を一読し、問題意識を持ち積極的に課題や演習に取り組むこと。演習後は自らのテーマに沿って振り返りを行うこと。フィールドワークなどを取り入れながら、観察法などについて学ぶ機会を設けるため、積極的に参加すること。

【評価方法】

課題レポート50%、積極的なゼミへの取り組み状況(発表など)50%で評価する。

【テキスト】

岩田 正美、中谷 陽明、小林 良二、稲葉 昭英（編集）『社会福祉研究法—現実世界に迫る14レッスン』有斐閣アルマ、2006

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

社会福祉特別演習 I

担当教員 橋本 眞奈美

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

4年次に卒業論文を書き進めていく上で必要になる論文検索や情報収集のやり方を身につける。また社会福祉領域の中から各人が関心を持つ領域を決定していくことを念頭に文献を要約することができる。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 各人の関心領域について自由討論
- 第3回 4年生を招いて卒業論文への取り組みを聞く
- 第4回 図書館に向いて文献検索等の説明を受ける
- 第5回 自分が関心あるテーマで論文を持ち寄り、選んだ理由を発表する
- 第6回 自身が選んだ論文を要約する
- 第7回 自身がまとめた論文の要約を基にゼミ内で発表する
- 第8回 ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
- 第9回 ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
- 第10回 自身の問題意識をゼミ内で討論することで問題意識の明確化を図る
- 第11回 自身が選んだ論文もしくは専門書を持ち寄り、選んだ理由を発表する
- 第12回 自身がまとめた論文の要約を基にゼミ内で発表する
- 第13回 ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
- 第14回 ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
- 第15回 自身の問題意識に基づき情報収集並びに論文検索

【履修上の注意事項】

自分の研究テーマを決めていく上で必要になる、自身の関心事について積極的に情報収集を行うこと。ゼミの前には自身の問題意識の領域に関係する論文を読むこと。ゼミ終了時には、ゼミ内での討論を踏まえ自身の問題意識を掘り下げることで新たな論文を見つけること

【評価方法】

課題への取り組み方や相互批判的姿勢の保持 50%、レポート、論文要約の内容等 50%

【テキスト】

必要に応じて指示する

【参考文献】

必要に応じて指示する

社会福祉特別演習 I

担当教員 田島 望

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

論文の書き方をはじめとした基礎的な知識を獲得し、必要な文献等の収集や理解を行うことができるようになる。また、本演習を通して自身の関心を幅を広げ、課題の設定を行うことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	シラバスの説明 論文についての理解.
2	論文の構成や書き方について.
3	文献検索の方法の理解.
4	論文を用いて論文の読み方についての理解.
5	論文（研究）テーマの設定についての理解.
6	関心のあるテーマの論文を要約し目的や研究方法などについて理解する（報告を含む）
7	関心のあるテーマの論文を要約し目的や研究方法などについて理解する（報告を含む）
8	関心のあるテーマの論文を要約し目的や研究方法などについて理解する（報告を含む）
9	関心のあるテーマの論文を要約し目的や研究方法などについて理解する（報告を含む）
10	キーワードを抽出しいくつかの論文を基に自身のテーマ設定に向けた報告
11	キーワードを抽出しいくつかの論文を基に自身のテーマ設定に向けた報告
12	キーワードを抽出しいくつかの論文を基に自身のテーマ設定に向けた報告
13	キーワードを抽出しいくつかの論文を基に自身のテーマ設定に向けた報告
14	先行研究についての理解と考察
15	テーマ設定に向けた今後の課題について

【履修上の注意事項】

事前に自身の関心事項について、学習を進めておくこと。授業では自らの関心を基に進めるため、主体的に参加し、他者の考えや意見を積極的に聴くこと。また、授業で得た他者の意見や考えをもとに、事後学習において自身の関心事項についての理解を深めること。

【評価方法】

ゼミへの参加態度（50%）と課題報告・提出（50%）により判断する。

【テキスト】

必要に応じて適宜紹介・配布する

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介・配布する。

社会福祉特別演習 II

担当教員 金 蘭九

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日ごろのレポートはもとより、社会福祉学科における学生生活の総決算である卒業研究論文を納得のいく内容で書くことができるように、指導（事前準備）を行なう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	福祉の一般用語
2	福祉の専門用語
3	福祉の枠組み 1 高齢者の福祉
4	福祉の枠組み 2 障害者の福祉
5	福祉の枠組み 3 児童などの福祉
6	福祉の枠組み 4 民間の福祉
7	福祉の学び方 1 サービスの利用者別に学ぶ
8	福祉の学び方 2 サービスの供給主体別に学ぶ
9	福祉の学び方 3 サービスの方法別に学ぶ
10	卒業研究論文全体ガイダンス
11	卒業研究論文個別ガイダンス
12	卒業研究論文執筆のためのスケジュール
13	テーマの選び方
14	指導教員の助言
15	卒業研究論文執筆のための総括・課題と習作

【履修上の注意事項】

授業前にキーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

発表30%、レポート70%で評価する。

【テキスト】

本年度はとくに使用せず、授業の際にプリントや資料を配付する。

【参考文献】

各回の授業の際に紹介する。

社会福祉特別演習 II

担当教員 西島 衛治

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会福祉特別演習 I を踏まえて4年時の卒論の準備を行う。(協同学習の方法を活用する)

【授業の展開計画】

卒業論文のテーマ(主題及び副題)を考える。自分のこれまでの生活体験や学習した経過や現在の社会情勢などを背景に将来の課題を予想し、学生が、その解決の方法を提案できるようにする。

週	授 業 の 内 容
1	研究の背景を考える(西島衛治)
2	研究の動機を考える(西島衛治)
3	研究の目的を考える(西島衛治)
4	研究テーマを考える(西島衛治)
5	研究の仮説を考える(西島衛治)
6	研究の方法を考える(西島衛治)
7	研究の分析手段を考える(西島衛治)
8	量的研究と質的研究を比較して、自分の方法を決定する(西島衛治)
9	序論を構成する(研究の背景、動機、目的、方法など)(西島衛治)
10	本論を構成する(1)(西島衛治)
11	本論を構成する(2)(西島衛治)
12	本論を構成する(3)(西島衛治)
13	結論を構成する(1)(西島衛治)
14	結論を構成する(2)(西島衛治)
15	卒業論文のたたき台を作成する(正式な卒論は、4年時)(西島衛治)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分)【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。(120分)【その他のアドバイス】講義の中でノートの作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分)【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。(120分)【その他のアドバイス】講義の中でノートの作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【テキスト】

同演習 I と同様

【参考文献】

その他、関連する資料を配布する。

社会福祉特別演習 II

担当教員 李 玄玉

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

1. 達障害児に関連する様々な問題の中から、各自、関心あるテーマの先行研究論文を収集し、先行論文を読むことによって、一連の研究の流れを体験する。
2. 自分の研究（卒論）に向けて、研究の意義・研究方法・分析・考察などについて理解を深める。
3. 一つのテーマを取り上げ、自分なりの論文作成ができるような力を身に付ける。

【授業の展開計画】

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 1回； | 導入、演習計画 |
| 2回～ 5回； | 研究方法及び論文作成について基礎学習 |
| 6回～ 8回； | 資料収集と文献による再学習を通じて、各自、研究課題の方向性を探る。 |
| 9回～ 11回； | 研究テーマ及び研究目的に応じた研究方法を検討する。 |
| 12回～ 14回； | 卒業論文の完成に向けて |
| 15回； | まとめ |

【履修上の注意事項】

自分の研究テーマに関連する先行文献を調べておくこと。

【評価方法】

発表40%、レジュメやレポート20%、発言状況20%、研究計画20%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

各自、テーマに沿って個々に紹介する。

社会福祉特別演習 II

担当教員 永田 俊明

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本演習は、社会福祉特別演習 I に引き続き卒業研究論文作成の基礎知識の習得にある。演習 II では、前期内容を踏まえ各人の研究テーマの探索に重点を置く。つまり研究テーマの絞り込みと文献レビューを中心に展開していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーションとスケジュール再確認
2	研究テーマ (1) 関心事、興味領域
3	研究テーマ (2) テーマに関するキーワード検索
4	研究テーマ (3) 文献検索の方法
5	研究テーマ (4) 文献レビューの仕方
6	演習 (1) レジューメ作成方法
7	演習 (2) 各自テーマに沿った文献レビュー発表 (1) 関心のある領域からの検索
8	演習 (3) 各自テーマに沿った文献レビュー発表 (2) キーワードによる検索
9	演習 (4) 各自テーマに沿った文献レビュー発表 (3) 関心のあるテーマによる検索
10	演習 (5) 各自テーマに沿った文献レビュー発表 (4) テクニカルタームによる検索
11	研究デザイン (1) 研究時期と年間行事との擦り合わせ
12	研究デザイン (2) 研究対象者の特定
13	研究デザイン (3) 研究テーマの焦点化
14	研究デザイン (4) 研究方法 (量的・質的研究) の確定
15	研究デザイン (5) 仮テーマの確定

【履修上の注意事項】

事前準備として、本人の関心やテーマを各自さまざまなツールから検索しておく。卒業研究論文を念頭に置き、テーマの絞り込みをしておく。

【評価方法】

レポート 30% 演習課題 70% 100点満点で評価

【テキスト】

未使用

【参考文献】

随時紹介していく

社会福祉特別演習 II

担当教員 山本 孝司

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

「社会福祉特別演習 I」に引き続き、卒業研究論文執筆のための基礎的能力を身につける。問題意識をさらに一層明確化することができる。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～第7回 先行研究のレビュー
- 第8～第14回 卒業研究論文の「問題設定」
- 第15回 執筆に関する心構えと注意事項

【履修上の注意事項】

問題意識をもつこと。社会にむけてアンテナを拡げること。
事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

各人の設定した課題への取り組み、教員側からかされたリポートを材料に総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

社会福祉特別演習 II

担当教員 河谷 はるみ

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会保障は、法律論だけでは解決できない学問である。そのため、行政の実態や福祉の現場、地域の現実に直に触れる。フィールドワークを通して、理論と実務の乖離、ギャップや矛盾点を見出し、実際の福祉政策にどのように反映したらよいかを考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	社会保障とは何か（課題の設定）
3	社会保障とは何か（問題解決の方法）
4	レジュメ報告・質疑応答（全体指導）
5	レジュメ報告・質疑応答（グループ指導）
6	レジュメ報告・質疑応答（個別指導）
7	レジュメ報告会（グループ発表）
8	レジュメ報告会（個別発表）
9	フィールドワークとは何か（課題の設定と問題解決の方法）
10	フィールドワーク準備（1回目）
11	フィールドワーク準備（2回目）
12	フィールドワーク（1回目）
13	フィールドワーク（2回目）
14	フィールドワークでの学び（理論と実務の乖離）
15	特別演習 II（総括）

【履修上の注意事項】

- (1) 自分で課題を見つけ、問題意識を持ち、理論的に考えること。
- (2) 予習をして授業に臨み、授業後は、復習をすること。

【評価方法】

レジュメ報告 50%、フィールドワーク 30%、取り組み姿勢 20%

【テキスト】

特に指定しない。自分のテーマに沿って、文献検索をすること。

【参考文献】

適宜、紹介する。

社会福祉特別演習 II

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

こころの健康問題により生活のしづらさ（生活障害）を抱える人々に対する援助方法・支援者の抱える困難さ等を探究する。本演習を通じて卒業論文の作成に関する基礎的な知識・方法論を身につけるとともに、「メンタルヘルスソーシャルワークとはなにか」について自分の言葉で説明できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	研究デザイン①（研究課題の設定・課題の絞り込み）
2	研究デザイン②（関連付け・整理・ターゲットレベルの焦点化・現実的制約のクリア）
3	仮説の構築①（帰納法と演繹法）
4	仮説の構築②（機能・モデル、分類・類型）
5	研究資料（データ）の収集法①（質的データと量的データ）
6	研究資料（データ）の収集法②（対象としての個人・集団）
7	研究資料（データ）の収集法③（質的調査）
8	研究資料（データ）の収集法③（量的調査）
9	研究資料（データ）の分析法①（質的データの実証分析）
10	研究資料（データ）の分析法②（量的データの実証分析）
11	各ゼミ生の関心事に沿った参考文献・資料に基づくプレゼンテーション①（質的研究）
12	各ゼミ生の関心事に沿った参考文献・資料に基づくプレゼンテーション②（量的研究）
13	各ゼミ生の関心事に沿った参考文献・資料に基づくプレゼンテーション③（理論・文献研究）
14	研究テーマの絞込み
15	まとめと振り返り

【履修上の注意事項】

自らの発言に責任を持って行動すること。報告・連絡・相談を行い、主体的にゼミ活動に取り組むこと。配布された参考文献などの資料について事前の一読し、問題意識を持って授業に臨むこと。また、他のゼミ生の研究にも関心を持ち、授業後に自身の研究テーマや現在の進捗と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

途中経過報告・担当発表・相互批判的考察：70%，レポート：30%

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献】

高木邦明ほか編『障害者福祉の研究課題と方法』2007，学文社
岩田正美ほか編『社会福祉研究法—現実世界に迫る14レッスン—』2006，有斐閣

社会福祉特別演習 II

担当教員 森 信之

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

卒業研究に向けて、自らの関心、興味に沿って、文献を検索・収集し、整理・分析する。ゼミでの討論等を通じて、各自の興味をさらに掘り下げ、卒業研究テーマを決定するまでを目標とする。

【授業の展開計画】

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 論文発表・研究討論

第15回 研究テーマ決定および今後の研究計画

【履修上の注意事項】

ゼミに出席すればよいだけでなく、討論に参加できるくらい、事前に論文を読み込んでおくこと。また、ゼミで指摘された事については、次回までに調べて解決しておくこと。

【評価方法】

ゼミでの議論における積極性、発言の的確性、論理性、また、担当発表における要約力、表現力などを総合的に判断し評価する。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じ、プリントを配布。

【参考文献】

適宜、紹介する。

社会福祉特別演習 II

担当教員 水間 宗幸

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

卒業研究論文執筆に向けてテーマ設定を行い、論文執筆に向けた準備ができる。

【授業の展開計画】

グループ学習と個別指導を用い、指導を進める。

テーマの決定と卒業研究論文執筆の準備に対する指導を行う。

興味関心などをもとにテーマを設定する。
このテーマに基づいたさらなる文献収集、および読み込みを行う。

実際の論文の文体に慣れるトレーニング、研究方法の学習、テーマをより具体化させ、研究テーマの決定へ向ける。

【履修上の注意事項】

各自、自覚を持って取り組むこと

【評価方法】

態度、意欲80%、課題20%で評価を行う。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

適宜紹介する

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 山住 賢司

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「社会福祉特別演習Ⅰ」に引き続き、各自の研究内容について相互理解を深めるとともに、研究の進め方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法を学び、独自の研究を遂行できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

卒業研究のテーマとして関心のある分野の文献を収集し、その内容についてまとめ、発表を各人で行なう。各人の関心について絞りこんでいき、4年次の卒業論文に向けての研究計画書を最終的に提出する。

週	授 業 の 内 容
1	プレゼミに関するガイダンスとスケジュール確認
2	卒論テーマ計画書・研究計画書について
3	卒論テーマ計画書発表(1)
4	卒論テーマ計画書発表(2)
5	文献購読発表(1) 関心のある領域からの検索
6	文献購読発表(2) 関心のある領域からの検索
7	卒論の書き進め方
8	卒論の構成の仕方
9	序論・問題・目的の書き方
10	展開の仕方・結果の吟味の仕方
11	考察と結論の書き方
12	文献購読発表(3) 先行研究からの検索
13	文献購読発表(4) 先行研究からの検索
14	研究計画書発表(1)
15	研究計画書発表(2)

【履修上の注意事項】

ゼミでは各人の積極的な参加姿勢が求められる。事前学習としてテキスト・配布資料等の確認を行い、文献購読発表等の準備を十分に行ってゼミに臨むこと。また各回の内容についてはゼミ終了後必ず確認を行うこと。

【評価方法】

ゼミでの発表内容等を考慮し総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず、随時資料を配布する。

【参考文献】

「改訂新版 心理学論文の書き方」 松井豊（著） 河出書房新社 2010

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 吉岡 久美

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

論文の作成方法を理解し、興味ある事柄からテーマの確定ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	キーワードをもとに文献検索を行う。
2	文献の理解：文献の要約とそれについての自分の考えをまとめる。
3	文献の理解：前回のまとめを、発表し討議する。
4	文献の理解：文献の要約とそれについてグループでまとめる。
5	文献の理解：前回のまとめを発表し、全体討議をする。
6	研究方法について理解する。（調査、文献、実験等）
7	今後の論文完成までの行動計画を作成する。
8	これまでの文献等を整理し、キーワードとの照合を行い、研究の方向性について考える。
9	調査研究の文献を読み、その方法を理解する。
10	文献研究の文献を読み、その方法を理解する。
11	実験研究の文献を読み、その方法を理解する。
12	自らの研究方法について方向性を見直し、研究の可能性を探る。
13	動機、問題の背景、仮説を明確化する。
14	テーマの確定を行う。
15	テーマに沿ったキーワード、全体構成を検討する。

【履修上の注意事項】

演習前には、次回の予定を確認して文献のまとめや分担された範囲の要約をしておくこと。
演習後は、指導内容を振り返り、まとめなおしをすること。

【評価方法】

積極性、協調性、独自性を重視する。課題の提出50%、取組み50%で評価する。

【テキスト】

指定なし

【参考文献】

社会福祉特別演習 II

担当教員 隈 直子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会福祉特別演習 I に引き続き、卒業研究論文の作成に向け、全体指導を行う。各学生の興味、関心に基づく研究テーマの決定を目指し、文献購読を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、夏季休暇中の課題整理
2	先輩からの報告
3	各人の興味・関心あるテーマの発表、レジュメ作成方法の指導
4	文献検索と研究方法の検討
5	先行研究の報告・ディスカッション (2名)
6	先行研究の報告・ディスカッション (2名)
7	資料収集、整理
8	研究テーマを明確化し、研究の方向性を検討する
9	研究テーマ、研究方法の発表、ディスカッション (2名)
10	研究テーマ、研究方法の発表、ディスカッション (2名)
11	研究の動機、背景を見直し、これまでの文献を読む。
12	テーマに応じた論文の要約報告・ディスカッション (2名)
13	テーマに応じた論文の要約報告・ディスカッション (2名)
14	卒論作成に向けた研究計画の作成
15	研究テーマの設定と全体構成の検討

【履修上の注意事項】

問題意識を持って、積極的に参加することが望ましい。発表に向けて予習を行い、資料等準備すること。授業後は、復習を行い、課題に対して主体的に取り組むこと。

【評価方法】

報告・発表内容 (50%)、参加態度・課題への取り組み等 (50%) により判断する。

【テキスト】

指定なし

【参考文献】

適宜紹介する。

社会福祉特別演習 II

担当教員 平川 泰士

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

授業のねらい「障害」のある人々が、自身の望む普通の生活を実現するために、障害福祉の基本理念をもとに、考察し、制度・施策、ソーシャルワークのあり方を検討することができるようになる。これらを検討するための基盤となる文献探索、整理、検討方法などの知識・手法を身につけることができる。

【授業の展開計画】

1. 研究資料の活用方法（収集）
2. 研究資料の活用方法（評価）
3. 研究資料の活用方法（整理、検討の方法）
4. 研究資料の分析方法（文献レビューの方法）
5. 研究資料の分析方法（調査研究法の理解）
6. 研究手法に関する文献の輪読（質的研究法）
7. 研究手法に関する文献の輪読（量的研究法）
8. 研究課題の設定の検討、指導
9. 研究課題についての報告（基礎資料の収集）
10. 研究課題についての報告（文献リストの作成）
11. 研究デザインの設定の方法（概略の説明）
12. 研究デザインの設定の方法（課題の設定）
13. 研究デザインの設定の方法（課題の絞り込み）
14. 研究課題についての指導（課題設定）
15. 研究課題についての指導（相互検討）

【履修上の注意事項】

指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】

講義への参加状況（30%）、報告内容（30%）、課題の事前・事後学習（40%）をもとに評価を行う。

【テキスト】

別途指定

【参考文献】

別途指定

社会福祉特別演習 II

担当教員 豊田 保

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

自らの研究課題について、進捗状況に応じて発表できるようになり、他のゼミ生との間でディスカッションができるようになる。

【授業の展開計画】

論文の作成、抄録の作成、研究内容の発表、発表に対する質問への応答ができるようになる。

週	授 業 の 内 容
1	論文の作成方法 (90分×3回)
2	抄録の作成とキーワードの抽出方法 (90分×2回)
3	研究内容の発表方法 (90分×2回)
4	研究内容の発表と質疑応答 (90分×8回)
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

研究の進め方についての実践的な技能を習得するように努力する。

【評価方法】

ゼミ運営への貢献度、発言内容、発表内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

ゼミの開始時と必要に応じて提示する。

【参考文献】

ゼミの進捗状況に応じてアドバイスする。

社会福祉特別演習 II

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生活を営む上で「福祉」は欠かせない。現在の社会福祉・介護福祉の状況に興味を持ち、幅広い視点で考えることができる力を身につけることができる。
 先行研究と向き合い、他者と語り、自分に問うことができる、専門職者を目指し、探究できる人材になることができる。そのために、この科目ではまず卒業論文の作成に関する基礎知識・方法論の習得をはかる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	先行研究の状況報告
2	研究デザイン①（研究課題の絞り込み）
3	研究デザイン②（関連付け・整理）
4	仮説を考える
5	仮説を考え、検討する
6	研究資料（データ）の収集について①
7	研究資料（データ）の収集について②
8	研究資料（データ）の収集について③
9	研究資料（データ）の収集について④
10	研究資料（データ）の収集について⑤
11	研究資料（データ）の収集について⑥
12	経過報告書作成①（計画の進捗状況）
13	経過報告書作成②（先行研究・研究方法）
14	経過報告会（今後の計画立案）
15	まとめと振り返り

【履修上の注意事項】

主体的にゼミ活動に取り組むこと。報告・連絡・相談を行うこと。問題意識を持って授業に臨むこと。
 他者（他のゼミ生など）の意見や考えに関心を持ち、自分の研究テーマや進捗状況と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

途中経過報告・課題担当発表・ゼミの活動状況等：70% レポート提出：30%

【テキスト】

別途指示

【参考文献】

別途指示

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会生活における様々な社会問題に関心を持ち、福祉的な立場から問題意識を持ち、深めることができる。関心のある事柄より、研究テーマを選定することを目指す。関心のあるテーマに沿って文献検索を行い、文献研究について理解を深める。社会福祉研究の方法、分析、まとめ方などを理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文献の理解①文献の要約と考察を行い各自発表する
2	文献の理解②文献の要約と考察を行い各自発表する
3	文献の理解③文献の要約と考察を行い各自発表する
4	文献の理解④文献の要約と考察を行い各自発表する
5	研究方法の理解：質的調査の実際①面接法を理解しテーマに沿って面接を行う
6	研究方法の理解：質的調査の実際②面接法を理解し面接記録を行う
7	研究方法の理解：質的調査の実際③データ分析を行う
8	研究方法の理解：質的調査の実際④データ分析を行う
9	研究方法の理解：質的調査の実際⑤発表の仕方を理解し、質的調査研究結果を発表する
10	研究方法について説明し、各々の研究方法について考察する
11	文献収集により各々の研究テーマを検討する
12	研究テーマの焦点化をはかり、研究テーマ選定の動機や背景の明確化をはかる
13	研究テーマに沿って文献等により研究仮説を検討する
14	研究テーマに沿って研究方法を決定し、各々の研究方法について助言指導を行う
15	卒業研究論文の全体構成を検討する

【履修上の注意事項】

報告・連絡・相談・確認を行い、自らの発言や行動に責任を持ち、積極的にゼミ活動に取り組むこと。課題に沿って参考文献を一読し、問題意識を持ち積極的に演習に取り組み取り組むこと。演習後は自らのテーマに沿って振り返りを行うこと。フィールドワークなどを取り入れながら、社会福祉研究を学ぶ機会を設けるため、積極的に参加すること。

【評価方法】

課題レポート（50%）、担当発表や相互批判的な考察など積極的なゼミへの取り組み状況（50%）で評価する。

【テキスト】

岩田 正美、中谷 陽明、小林 良二、稲葉 昭英（編集）『社会福祉研究法—現実世界に迫る14レッスン』有斐閣アルマ、2006

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

社会福祉特別演習 II

担当教員 橋本 真奈美

配当年次 3年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会福祉領域の中から自分の研究テーマを決めていく過程で、自身の関心事について積極的に情報収集を行うことができる。また、それに対する考察を深めていくための論文や専門書を検索し手元に集めることができる。併せて小論文の読み込み等を通して、卒業論文を作成していく手順や様式について理解する。

【授業の展開計画】

- 第1回 今後のスケジュール確認
- 第2回 夏季の課題到達の発表
- 第3回 問題領域について論文検索と読み込み、整理・分析方法についての検討
- 第4回 論文要約を行いつつ、キーワードについて調べる
- 第5回 自分の論文要約をゼミ内で発表、討論する
- 第6回 ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
- 第7回 ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
- 第8回 ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
- 第9回 自身の問題意識から見て妥当と思われる専門書を探す
- 第10回 問題意識についてレポート作成
- 第11回 問題意識についてのレポートをゼミ内で発表する
- 第12回 ゼミのメンバーによる問題意識についての発表を基に討論する
- 第13回 自身の問題意識に関係する専門書や論文を読み込む
- 第14回 解らないキーワードや論文形式について学ぶ
- 第15回 4年次に書く卒業論文のテーマを発表する

【履修上の注意事項】

積極的な姿勢で自身の問題意識に向き合うこと。その為に、ゼミの前には自身の問題意識の領域の論文を読み込み要約すること。ゼミ終了時には、ゼミ内での討論を踏まえ自身の問題意識を掘り下げることで新たな論文を見つけること。

【評価方法】

課題への取り組み方や相互批判的姿勢の保持 50%、レポート、論文要約の内容等 50%

【テキスト】

必要に応じて指示する

【参考文献】

必要に応じて指示する

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 田島 望

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

論文や研究に関する基礎知識の習得と共に、研究テーマや目的、研究方法等を絞り込むことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	シラバスの説明 テーマ設定等に向けたスケジュールの確認。
2	研究デザイン (研究課題を明確にし絞り込む)
3	研究デザイン (研究仮説の構築)
4	研究デザイン (研究対象の設定)
5	研究デザイン (研究方法<量的・質的>の検討)
6	文献(研究資料)収集 (文献研究)
7	文献(研究資料)収集 (質的研究)
8	文献(研究資料)収集 (量的研究)
9	研究データの分析方法 (質的データの分析方法)
10	研究データの分析方法 (量的データの分析方法)
11	各ゼミ生によるテーマに沿った文献レビュー及び研究に関するプレゼンテーション (文献研究)
12	各ゼミ生によるテーマに沿った文献レビュー及び研究に関するプレゼンテーション (質的研究)
13	各ゼミ生によるテーマに沿った文献レビュー及び研究に関するプレゼンテーション (量的研究)
14	研究テーマ及びキーワードの絞り込み
15	研究テーマの設定

【履修上の注意事項】

- ・主体的な参加と発言によって、自身のテーマ等を絞り込んでいくこと。
- ・事前に必要な論文を熟読し、講義後には自身のテーマと関連させて深めていくこと。

【評価方法】

ゼミへの参加態度(報告や討議内容)50%とレポート50%により総合的に判断する。

【テキスト】

演習内にて適宜紹介・配布します。

【参考文献】

演習内にて適宜紹介・配布します。

卒業研究論文

担当教員 西島 衛治

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

独自の調査、観察、聞き取りなどを行い論文のオリジナリティを確保する。

【授業の展開計画】

【学生指導関連】

3年生の特別演習では、論文の書き方や研究方法などについて卒論の基礎を身につけます。
4年生で卒論指導を希望する学生は、上記の研究課題に関連するから希望のテーマを選びます。
事前の面談を行います。なお、具体的な研究課題は、時間をかけて学生との協議の上決定します。

【履修上の注意事項】

【研究課題】以下のテーマから選択する。

① 障害者の生活環境整備に関する研究② 高齢者（認知症を含む）の生活環境整備に関する研究③ 発達障害児の教育環境の計画に関する研究④ その他福祉工学（バリアフリー、UD）に関する研究⑤ ボランティア、NPOなどの市民活動などに関する研究⑥そのほか、テーマは、希望により選べます
なお、予習と復習は行う。

【評価方法】

必ずゼミを受講し、論文の指導を受ける。予習・復習の自主的学習態度の確認を行う。

【テキスト】

川村著「改訂 福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方」中央法規2013

【参考文献】

白井・高橋著「よくわかる卒論の書き方」ミネルバ書房

卒業研究論文

担当教員 森 信之

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

大学4年間の集大成として、これまでの学びを基に、自ら研究テーマを選び、問題を提起し、深く調査・考察して独自の意見を確立して問題を解決するとともに、その研究結果を論文として著わすことができる。

【授業の展開計画】

- ・研究テーマ確認・研究計画書修正
- ・情報収集・整理・要約
- ・先行研究の課題分析・討論
- ・論文構成の検討
- ・必要に応じて社会調査実施・データ入力・統計処理
- ・論文作成
- ・読み合わせ・研究討論
- ・論文修正・推敲
- ・論文完成

1学期はゼミ全体でのグループワーク中心で行なうが、2学期は教員との個人ワークも行なう。論文がある程度形になってきたら、読み合わせ・討論を行ない、研究の質を高めていく。

【履修上の注意事項】

目標をしっかり持って、計画的に研究を進めてもらいたい。ゼミで指摘された事項については、次回のゼミまでに解決しておくこと。

【評価方法】

研究の独自性、論理・主張の明確さ、論文の構成、また引用・参考文献等の収集情報の質・量などを総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

必要に応じて文献の指示をする。

卒業研究論文

担当教員 李 玄玉

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

- 文献検索などを通じて関心のあるテーマを取り上げ、一連の研究の流れを体験し、研究の意義や方法について理解を深める。
- 自分の研究テーマを明確にし、そのテーマに基づく卒業論文を作成する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	顔合わせ・オリエンテーション	16	中間報告会の発表①ー2名
2	テーマに近い論文の紹介	17	中間報告会の発表②ー2名
3	文献要約一の発表・ディスカッション(2名)	18	中間報告会の発表③ー2名
4	文献要約一の発表・ディスカッション(2名)	19	中間報告会の発表④ー2名
5	文献要約一の発表・ディスカッション(2名)	20	中間報告会の学びと今後の方向性の確認
6	テーマ及びキーワードの説明	21	研究結果のまとめ・文献要約
7	研究計画(案)発表ー2名	22	考察の方向性・文献要約
8	研究計画(案)発表ー2名	23	考察の文章化・文献要約
9	研究計画(案)発表ー2名	24	論文全体の流れ・文章化の確認
10	研究計画(案)発表ー2名	25	研究論文草稿完成
11	それぞれの研究計画書完成	26	研究論文修正
12	研究方法の具体化(調査票などの案)	27	抄録の作成・論文提出
13	自分の研究テーマに関連する先行研究の要約	28	自分の論文要約
14	自分の研究テーマに関連する先行研究の要約	29	ゼミの卒業論文発表会
15	研究方法の具体化・調査票などの完成	30	ゼミ論文集の作成

【履修上の注意事項】

- 先行研究、参考文献を多めに収集し、読むこと。

【評価方法】

完成した卒業研究論文を評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 金 蘭九

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

日ごろのレポートはもとより、社会福祉学科における学生生活の総決算である卒業研究論文を納得のいく内容で書くことができるように、全体または個人指導を行なう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業研究論文の執筆にあたって	16	参考文献の集め方
2	執筆のルール	17	文献などの探し方
3	記号などの用い方	18	データの収集
4	文献および統計・図表の引用法	19	新聞記事の切り抜きと辞書の活用
5	文章の推敲	20	参考文献の活用法
6	福祉の一般用語	21	参考文献の読み方
7	福祉の専門用語	22	データのまとめ方
8	福祉の枠組み	23	アンケート調査の方法
9	福祉の枠組み	24	面接調査の方法
10	福祉の学び方	25	卒論の様式と体裁・執筆
11	福祉の学び方	26	卒論指導
12	卒論ガイダンス	27	卒論指導
13	卒論ガイダンス	28	卒論指導
14	卒論中間発表会	29	卒論指導
15	ふりかえり	30	ふりかえり

【履修上の注意事項】

授業前にキーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

発表30%、レポート70%で評価する。

【テキスト】

本年度はとくに使用せず、授業の際にプリントや資料を配付する。

【参考文献】

各回の授業の際に紹介する。

卒業研究論文

担当教員 後藤 秀昭

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

1. 研究テーマや目的に添った先行研究をまとめ、それらを基にデータの収集から分析、結果、考察と一連の研究活動が理解できる。
2. 中間あるいは最終発表会を通して意見交換し、研究論文を完成することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究テーマ、研究方法の検討	16	夏季休業中の課題の確認と検討
2	研究テーマ関連の先行研究の蒐集と検討	17	調査結果や文献研究成果の検討と指導
3	先行研究レビュー発表①（発表者2名）	18	調査結果や文献研究成果の検討と指導
4	先行研究レビュー発表②（発表者2名）	19	第2回草稿発表準備（研究の成果の検討）
5	研究方法指導Ⅰ（量的研究手法の説明）	20	第2回草稿発表準備（研究の成果の検討）
6	研究方法指導Ⅱ（質的研究手法の説明）	21	第2回草稿発表（発表者2名）と指導
7	研究方法指導Ⅲ（文献研究手法の説明）	22	第2回草稿発表（発表者2名）と指導
8	第1回草稿発表準備（研究目的、研究方法）	23	研究論文の検討と校正（目的、方法）
9	第1回草稿発表準備（引用文献の明示方法）	24	研究論文の検討と校正（結果、考察）
10	第1回草稿発表（発表者2名）と指導	25	研究論文の検討と校正（諸言、おわりに）
11	第1回草稿発表（発表者2名）と指導	26	第3回草稿発表（最終発表2名）と指導
12	調査票作成指導①（各質問内容と全体構成）	27	第3回草稿発表（最終発表2名）と指導
13	調査票作成指導②（調査対象者選定）	28	研究論文最終修正指導（全体の校正）
14	調査票作成指導③（調査上の倫理的配慮）	29	研究論文最終修正指導（文献等の細部）
15	夏季休業中の課題提示	30	研究論文完成指導

【履修上の注意事項】

1学期に1回、2学期に2回の発表会（3年生同席）を実施するので、研究計画に基づいた積極的な文献の蒐集、調査活動、論文執筆に取り組むこと。
 教員の指導内容や課題提示について、講義（指導）後は論文をまとめ直し、次回の講義（指導）前までには新たな課題について執筆してくること。
 これら一連の作業を通して、研究論文としてのロジックを構築し、質的完成度を高めていくこと。

【評価方法】

研究活動への取り組み（20%）、草稿の発表・他の学生との意見交換（10%）、論文の完成度（70%）

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

澤田昭夫『論文の書き方』（第23刷）講談社学術文庫、1988。
 花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル』（初版第8刷）、2002。

卒業研究論文

担当教員 永田 俊明

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

4年間の集大成として卒業研究論文を位置づけ、人間科学研究法に基づく研究論文作成を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	文献レビュー (1) 関心のある論文探索	16	データ分析 (1) データ要約
2	文献レビュー (2) 仮テーマに近い論文探索	17	データ分析 (2) 記述統計
3	テーマに関する焦点化とキーワード	18	データ分析 (3) パッケージ分析
4	仮テーマ決定ディスカッション	19	結果 (1) 目的に沿った結果抽出
5	テーマの決定と先行研究レビュー	20	結果 (2) 事実のみの記述と分析
6	研究計画の作成 (1) 研究のタイプ	21	結果の図表作成 (1) 図表作成のルール
7	研究計画の作成 (2) 計画書作成	22	結果の図表作成 (2) 文中挿入の仕方
8	研究目的の探索 問題意識から研究課題へ	23	考察 (1) 目的に沿った考察の仕方
9	研究目的に至るきっかけと動機	24	考察 (2) 新たな知見の発見
10	研究目的 理論と仮説	25	考察 (3) 関係性や因果関係
11	研究方法 (1) 量的・質的研究	26	論文執筆 (1) 論文の体裁
12	研究方法 (2) 方法論・アプローチ	27	論文執筆 (2) 論文の構成
13	データ収集 (1) 調査法・インタビュー法	28	論文執筆 (3) 論文の実際
14	データ収集 (2) 質問紙法・実験法	29	結論 書き方と内容
15	統計手法 統計的推測・仮説検定	30	引用・参考文献 文献一覧の作成方法

【履修上の注意事項】

基本的には3年次の特別演習で習得した内容をベースに、人間科学研究に沿いながら論文作成できるように準備をしておくこと。

【評価方法】

卒業研究論文作成プロセス(出席も含む) 40%
完成論文の内容 60% により総合的評価する。

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

随時紹介

卒業研究論文

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

各ゼミ生の関心事から精練された研究テーマをもとに、基本的な研究方法を押さえた卒業研究論文の作成を行う。先行研究の精査やフィールド調査を通じて、社会で起こっている事象に対し、社会科学・社会福祉学的な視点を持って分析・考察出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	研究目的に関する指導①（問題提起）	16	データ分析指導⑥（個別指導）
2	研究目的に関する指導②（レビュー）	17	データ分析指導⑦（個別指導）
3	研究方法に関する指導①（方法論の設定）	18	データ分析指導⑧（個別指導）
4	研究方法に関する指導②（倫理的配慮）	19	データ分析指導⑨（個別指導）
5	研究目的・方法に関する指導③（個別指導）	20	データ分析指導⑩（個別指導）
6	データ収集指導①（質的調査法）	21	分析結果のまとめ①（個別指導）
7	データ収集指導②（質的調査法）	22	分析結果のまとめ②（個別指導）
8	データ収集指導③（量的調査法）	23	分析結果のまとめ③（個別指導）
9	データ収集指導④（量的調査法）	24	分析結果のまとめ④（相互批判的検証）
10	データ収集指導⑤（理論・文献研究）	25	分析結果のまとめ⑤（相互批判的検証）
11	データ分析指導①（質的調査法）	26	考察の検討とまとめ方の指導①（個別指導）
12	データ分析指導②（質的調査法）	27	考察の検討とまとめ方の指導②（個別指導）
13	データ分析指導③（量的調査法）	28	考察の検討とまとめ方の指導③（個別指導）
14	データ分析に指導④（量的調査法）	29	考察とまとめ方の指導④（相互批判的検証）
15	データ分析指導⑤（理論・文献研究）	30	考察とまとめ方の指導⑤（相互批判的検証）

【履修上の注意事項】

自らの発言に責任を持って行動すること。報告・連絡・相談を行い、主体的にゼミ活動に取り組むこと。配布された参考文献などの資料について事前の一読し、問題意識を持って授業に臨むこと。また、他のゼミ生の研究にも関心を持ち、授業後に自身の研究テーマや現在の進捗と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

卒業研究論文：60%，途中経過報告・相互批判的考察：40%

【テキスト】

なし。

【参考文献】

高木邦明ほか編『障害者福祉の研究課題と方法』2007，学文社
岩田正美ほか編『社会福祉研究法—現実世界に迫る14レッスン—』2006，有斐閣

卒業研究論文

担当教員 山本 孝司

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

4年間の集大成として卒業研究論文を完成させることができる。

【授業の展開計画】

3年次「社会福祉特別演習Ⅰ」「社会福祉特別演習Ⅱ」では集団指導という形をとっていたが、4年次「卒業研究論文」では、個別指導を中心に各自が研究論文を作成できるよう指導する。

【履修上の注意事項】

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

提出された研究論文に対し、指導教員が、副査の評価を勘案して、決定する。

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 豊田 保

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

ゼミ生自ら設定した研究テーマに基づいた研究を具体的に推進し、卒業論文として完成させる。

【授業の展開計画】

研究の意義と背景、研究の方法とその妥当性、調査・研究の推進、研究結果についての考察、結論の展開を踏まえた卒業論文を完成させる。

週	授 業 の 内 容
1	先行研究のレビューと研究の意義について (90分×3回)
2	研究の意義とその社会的背景について (90分×3回)
3	調査・研究の具体的な方法について (90分×5回)
4	調査・研究の結果の分析と考察について (90分×5回)
5	考察から導き出される結論について (90分×3回)
6	討論を踏まえての卒業論文の執筆と完成 (90分×10回)
7	まとめ (90分×1回)
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

主体的に研究を推進し、内容が深められた卒業論文の完成を目標にする。

【評価方法】

卒業論文の内容とゼミ運営への貢献度で評価する。

【テキスト】

ゼミ生個々人の必要に応じて示唆する。

【参考文献】

ゼミ生個々人の必要に応じて示唆する。

卒業研究論文

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

研究に関心を持ち、研究テーマについて追及できる力を身につけることができる。
 先行研究と向き合い、他者と語り、自分に問うことができる、専門職者を目指し、探究できる人財になることができる。
 卒業論文の作成方法に関する基礎知識・方法論の習得をはかる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	現在の状況報告、計画の確認	16	現在の状況報告、計画の確認
2	経過報告会	17	分析結果のまとめ①
3	研究目的に関する指導①	18	分析結果のまとめ②
4	研究目的に関する指導②	19	分析結果のまとめ③
5	研究方法に関する指導①	20	分析結果のまとめ④
6	研究方法に関する指導②	21	分析結果のまとめ⑤
7	研究目的・方法に関する指導（個別）	22	結果考察についての指導①
8	データ収集についての指導①	23	結果考察についての指導②
9	データ収集についての指導②	24	結果考察についての指導③
10	データ収集についての指導③	25	結果考察についての指導④
11	データ分析についての指導①	26	結果考察についての指導⑤
12	データ分析についての指導②	27	論文の構成についての指導①
13	データ分析についての指導③	28	論文の構成についての指導②
14	データ分析についての指導④	29	論文の構成についての指導③
15	現在の状況確認、計画の確認	30	研究のまとめと今後の展開

【履修上の注意事項】

提出期限を守り、時間を無駄につかわないこと。
 主体的にゼミ活動に取り組むこと。報告・連絡・相談を行うこと。問題意識を持って授業に臨むこと。
 他者（他のゼミ生など）の意見や考えに関心を持ち、自分の研究テーマや進捗状況と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】

卒業論文：60% 途中経過報告・発表・ゼミの活動状況・取り組む姿勢：40%

【テキスト】

別途指示

【参考文献】

別途指示

卒業研究論文

担当教員 吉岡 久美

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究論文は4年間の学修の総合である。3年次の特別演習Ⅰ・Ⅱで学んだことを踏まえて、自らのテーマについて知識を深め、文章化して表現する能力を身につけ、論理的な展開を行ってまとめることができることを目的としている。自らの課題の明確化を行い、計画的に行動する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	3年次におけるまとめとテーマの決定	16	卒業研究論文作成：草稿の報告（2名）
2	研究計画の確認と文献考察の発表	17	卒業研究論文作成：草稿の報告（2名）
3	これまでの資料まとめと研究の方向性見直し	18	卒業研究論文作成：草稿の報告（2名）
4	中間報告の説明および準備（背景～方法）	19	論文における論点の確認
5	中間報告に向けたレポート作成	20	論文構成の見直し（全体像、執筆要綱）
6	中間報告レポートの確認と修正	21	引用文献の活用方法の見直し
7	中間報告（2名）と討議	22	図・表の適正化の確認
8	中間報告（2名）と討議	23	全体構成、内容とテーマの整合性の確認
9	中間報告（2名）と討議	24	最終発表についての説明
10	研究の課題の明確化と方向性見直し	25	卒業研究論文作成：学生間での理解の可能性
11	論文構成の理解と実践（緒言）	26	最終発表準備（PP作成）
12	論文構成の理解と実践（方法）	27	最終発表（2名）と討議
13	論文構成の理解（結果の書き方）	28	最終発表（2名）と討議
14	論文構成の理解（考察の推敲）	29	最終発表（2名）と討議
15	1学期の進捗状況報告および計画の見直し	30	論文の修正とまとめ

【履修上の注意事項】

卒業研究論文の執筆要綱を確認し、それに沿った形式で作成すること。

ゼミの学生全員で行う指導には必ず出席すること。

個別指導は原則として時間割上の開講時とするが、それ以外に必要な場合は、事前の時間調整等を積極的に行い、資料を準備すること。講義の事前・事後学習として、執筆した部分の整理と見直しを行うこと。

【評価方法】

論文の内容・完成度 50%
 中間・最終発表 20%
 討論への参加など積極的な取り組み 30%

【テキスト】

講義中に提示する。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 河谷 はるみ

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

特別演習Ⅰ・Ⅱでの学びを踏まえて、専門的な論文を読む。そして、論文の4要素（問題意識、論文の取り扱う範囲、どの視点から考察するのか、結論の方向性）をもとに、卒業研究論文を完成できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	卒業研究論文個別指導
2	卒業研究論文とは何か（論文の4要素）	17	卒業研究論文個別指導
3	卒業研究論文とは何か（問題意識）	18	卒業研究論文個別指導
4	卒業研究論文とは何か（論文の範囲）	19	卒業研究論文個別指導
5	卒業研究論文とは何か（視点の確認）	20	卒業研究論文個別指導
6	卒業研究論文とは何か（結論の方向性）	21	図表、引用文献、参考文献の書き方指導
7	テーマの設定、脚注の書き方指導	22	卒業研究論文執筆要領をもとに指導
8	文献検索指導（図書館）	23	卒業研究論文個別指導
9	文献検索のまとめ、資料収集	24	卒業研究論文個別指導
10	卒業研究論文レジュメ報告（全体指導）	25	卒業研究論文個別指導
11	卒業研究論文レジュメ報告（全体指導）	26	卒業研究論文最終指導（全体指導）
12	卒業研究論文レジュメ報告（全体指導）	27	卒業研究論文最終確認（誤字脱字の確認）
13	卒業研究論文レジュメ報告（全体指導）	28	卒業研究論文最終確認（製本作業）
14	卒業研究論文レジュメ報告（全体指導）	29	卒業研究論文最終発表会
15	卒業研究論文中間発表会（論文構成再考）	30	卒業研究論文の総括

【履修上の注意事項】

- (1) 自分で課題を見つけ、問題意識を持ち、理論的に考えること。
- (2) 予習をして授業に臨み、授業後は、復習をすること。

【評価方法】

卒業研究論文 80%、論文への取り組み姿勢 20%

【テキスト】

特に指定しない。自分のテーマに沿って、文献検索をすること。

【参考文献】

適宜、紹介する。

卒業研究論文

担当教員 隈 直子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生がそれぞれの卒業論文テーマを選定し、文献収集・調査・結果・考察などを通して卒業研究論文を作成する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	3年次までのまとめ、テーマの設定	16	進捗状況の報告（全体指導）
2	研究の背景と研究方法の検討	17	卒論作成指導（個別指導）
3	研究計画の確認とテーマの見直し	18	卒論作成指導（個別指導）
4	文献検察指導	19	卒論作成指導（個別指導）
5	卒業研究論文執筆要領の確認	20	卒論作成指導（個別指導）
6	進捗状況の報告とディスカッション（2名）	21	論点の確認
7	進捗状況の報告とディスカッション（2名）	22	図表、引用文献等の書き方指導
8	研究テーマの明確化と方法の見直し	23	卒論作成指導（個別指導）
9	論文構成の理解と見直し	24	卒論作成指導（個別指導）
10	卒論レジュメ報告	25	全体構成の確認
11	卒論レジュメ報告	26	卒論作成指導（全体指導）
12	卒論レジュメ報告	27	卒論発表の準備
13	卒論レジュメ報告	28	卒論発表とディスカッション（2名）
14	資料のまとめと研究の方向性を見直し	29	卒論発表とディスカッション（2名）
15	研究計画の見直し	30	卒論まとめ、修正

【履修上の注意事項】

予習復習を行い、問題意識をもって臨むこと。主体的に卒論作成に取り組むこと。

【評価方法】

卒業研究論文・報告会の内容（70%）、ゼミへの出席状況、参加態度・意欲等（30%）から判断する。

【テキスト】

個別に指示する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 平川 泰士

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

各自の研究テーマに基づき、具体的な実践・データをもとに、「障害」のある人々が、自身の望む普通の生活を実現するために、障害福祉の基本理念をもとに、考察し、制度・施策、ソーシャルワークのあり方を検討することができるようになる。卒業研究論文を所定の様式に基づき提出できることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(運営方針、年間予定)	16	アウトラインの報告、検討
2	研究デザインの設定 (先行研究の調査)	17	論文の構成の方法
3	研究デザインの報告 (先行研究の概況)	18	論文の基本ルールの確認 (提出要項)
4	研究課題についての指導 (先行研究)	19	論文の基本ルールの確認 (研究倫理)
5	研究デザインの設定 (仮説の構築)	20	先行研究の指導
6	研究デザインの設定 (理論モデルの検討)	21	先行研究の指導
7	研究デザインの報告 (仮説設定、相互検討)	22	分析方法の指導
8	研究デザインの検討	23	分析方法の指導
9	研究資料の分析法 (方法の概略)	24	分析結果、まとめの指導
10	研究資料の分析法 (質的研究法の理解)	25	分析結果、まとめの指導
11	研究資料の分析法 (量的研究法の理解)	26	考察の指導
12	研究成果の報告	27	考察の指導
13	研究デザインの設定 (アウトラインの作成)	28	考察の指導 (相互検討)
14	研究デザインの設定 (アウトラインの検討)	29	提出形式の確認、修正
15	研究デザインの設定 (アウトラインの指導)	30	提出形式の確認、修正

【履修上の注意事項】

指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】

講義への参加状況 (10%)、報告内容 (20%)、課題の事前・事後学習 (40%)、卒業研究論文 (30%) をもとに評価を行う。

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 水間 宗幸

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

個々の興味関心に基づきテーマ設定を行い、研究論文を書く目的、方法、様式を学び、執筆の中で理論的科学的態度で考察を行うことができる。

【授業の展開計画】

基本的に個別指導を中心に行う。

【1学期の主な内容】

それぞれのテーマに合わせて、論文の構成スタイルを決定する。
テーマに沿ったさらなる文献収集及びその読み込みを行う。
必要に応じてデータの収集を行う。

【2学期の主な内容】

これまでの文献や収集したデータの分析を行い、適切な考察を行い、卒業研究論文の完成を目指す。

これらを個別指導の中でディスカッションを通じて指導をする。

【履修上の注意事項】

個別指導が中心となるため、自覚を持って卒業研究論文に取り組むこと

【評価方法】

卒業研究論文：80% セミへの態度：20% 総合：100%で評価

【テキスト】

特になし

【参考文献】

適宜紹介する

卒業研究論文

担当教員 山住 賢司

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

各人の関心に基づく具体的な研究テーマに沿って研究を行い、卒業研究論文を完成させることを目的とする。

【授業の展開計画】

4年次1学期当初に卒業研究論文の題目を登録する。以後、担当教員の指導を受けつつ、論文作成を進め、提出締め切りに間に合うように作成・提出し、査読を受ける。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒論に関するガイダンス	16	データ分析に関する指導(4)個別指導
2	卒論作成スケジュールの確認	17	データ分析に関する指導(5)個別指導
3	研究計画書の確認	18	結果の説明に関する指導(1)情報の選択
4	研究目的に関する指導(1)題目の設定	19	結果の説明に関する指導(2)図表の提示法
5	研究目的に関する指導(2)問題意識の説明	20	結果の説明に関する指導(3)検定結果
6	研究目的に関する指導(3)研究の意義	21	結果の説明に関する指導(4)個別指導
7	研究目的に関する指導(4)個別指導	22	結果の説明に関する指導(5)個別指導
8	研究方法に関する指導(1)手法の選択	23	考察に関する指導(1)根拠に基づく主張
9	研究方法に関する指導(2)倫理的配慮	24	考察に関する指導(2)対立仮説との比較検討
10	研究方法に関する指導(3)実験刺激作成	25	考察に関する指導(3)限界と今後の発展
11	研究方法に関する指導(4)調査用紙作成	26	考察に関する指導(4)個別指導
12	研究方法に関する指導(5)個別指導	27	考察に関する指導(5)個別指導
13	データ分析に関する指導(1)データ整理	28	総合考察・結論に関する指導
14	データ分析に関する指導(2)分析手法の選択	29	引用・参考文献リストに関する指導
15	データ分析に関する指導(3)統計検定	30	要旨・キーワードに関する指導

【履修上の注意事項】

各自の研究テーマに真摯に向き合い、意欲的に卒業研究を進めていくことが求められる。
指導内容に沿った論文執筆を進めてゆき、随時チェックを受けること。
論文執筆の過程において指摘された点は速やかに修正を行い、再度のチェックを受けること。

【評価方法】

提出された卒業研究論文に対して副査のコメントを参考に主査（指導教員）が評価を決定する。

【テキスト】

使用せず、随時資料を配布する。

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

これまで学んだ事や3年次の特別演習Ⅰ・Ⅱで学修した事を活かし、学生の関心事から研究テーマを決定し、テーマに沿った研究論文作成する。
研究論文は基本的な研究方法を理解し、研究プロセスを大切にしながら論文を作成する。研究計画を意識して行動できることが求められる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究テーマに沿って問題意識を明確にする	16	執筆要綱の確認 執筆状況の報告及び指導
2	研究方法①研究計画立案	17	データ分析結果の考察
3	研究方法②研究目的・方法・倫理的配慮	18	データ分析結果の考察 まとめ
4	研究方法③文献活用・整理 研究方法設定	19	データ分析結果の考察 まとめ
5	研究方法④倫理的配慮 調査票作成	20	引用文献、参考文献活用
6	研究方法⑤調査票作成・実施	21	引用文献、参考文献活用
7	研究データ収集：文献研究・調査の実施	22	図表作成の適正化の確認および修正
8	研究データ収集：文献研究・集計表作成	23	論文構成の見直し
9	研究データ収集：文献研究・集計	24	論文構成の見直し
10	研究データ分析および文章化	25	卒業研究論文全体の構成確認
11	研究データ分析および文章化	26	卒業研究論文全体の構成確認
12	研究データ分析および文章化	27	卒業研究論文の発表と討論
13	研究データ分析および文章化	28	卒業研究論文の発表と討論
14	研究データ分析および文章化 中間報告	29	卒業研究論文の修正
15	研究データ結果および図表の作成	30	卒業研究論文の修正

【履修上の注意事項】

自らの研究テーマに沿って文献収集および文献を一読し相互批判的考察すること。
指導を受け修正を加えながら論文を作成すること。報告・連絡・相談・確認を行い、計画的に論文作成を行い、自らの発言や行動に責任をもつこと。
原則として、卒業研究論文指導は時間割上の開講時に行うこととする。しかし、それ以外に指導が必要な場合は、事前の相談に応じて時間の調整を行う。

【評価方法】

提出された卒業研究論文評価：60%
中間報告：20%
文献収集や相互批判的考察：20%

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

卒業研究論文

担当教員 橋本 眞奈美

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

3年次での演習の成果を踏まえ、自身の卒業研究のテーマを決めることができる。その上で論文作成に必要な先行研究の分析やデータの収集、結果の考察等を行うことができる。2学期は論文の完成に向けた指導を受けつつ卒業論文を完成させることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究テーマの確認並びに今後の進め方確認	16	作業到達点の確認とスケジュール確認
2	先行研究、データ等の収集と分析	17	章ごとに書き進めている到達点の発表
3	先行研究、データ等の収集と分析	18	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
4	データの整理、必要に応じて調査の準備	19	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
5	自身の意見に近い専門書の選定	20	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
6	調査項目検討もしくは専門書要点抜きだし	21	章ごとに書き進めている到達点の発表
7	調査の実施もしくは専門書の要点抜きだし	22	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
8	調査の集計もしくは論文章立ての検討	23	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
9	調査の集計もしくは論文章立ての検討	24	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
10	調査結果を補う論文検索、書き進める	25	各学生の進捗に合わせた個別指導
11	調査結果を補う論文検索、書き進める	26	各学生の進捗に合わせた個別指導
12	調査実施ゼミ生の論文章立て検討	27	各学生の進捗に合わせた個別指導
13	ゼミ内による中間発表	28	結論等の発表と討論（相互批判的検証）
14	ゼミ内による中間発表	29	結論等の発表と討論（相互批判的検証）
15	論文構成からみた修正点の確認	30	論文完成に向けた引用、文献の確認作業

【履修上の注意事項】

自身の研究テーマに積極的に取り組むこと、相談や報告を忘れずに行うこと。ゼミの前には自身の問題意識の領域の論文を読み込み要約すること。ゼミ終了時にはゼミ内での討論を踏まえ、自身の問題意識を掘り下げることによって卒業論文の論点を確認及び修正すること。

【評価方法】

卒業論文の完成度70%、資料収集や課題検討時の積極性20%、他学生との相互批判的考察時の態度10%

【テキスト】

なし

【参考文献】

研究テーマに即して個別に指示する

卒業研究論文

担当教員 田島 望

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次から積み上げてきた論文等に関する基礎知識をもとに関心のあるテーマについて卒業研究論文の作成を行うことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業研究論文指導（研究テーマ）	16	データ分析方法指導（個別指導）
2	卒業研究論文指導（研究目的）	17	データ分析方法指導（個別指導）
3	卒業研究論文指導（研究背景）	18	データ分析方法指導（個別指導）
4	卒業研究論文指導（先行研究）	19	データに基づいた図表の作成等
5	卒業研究論文指導（研究方法）	20	図表の表記や挿入方法
6	先行研究レビュー（文献研究）	21	分析・結果指導（個別指導）
7	先行研究レビュー（質的研究）	22	分析・結果指導（個別指導）
8	先行研究レビュー（量的研究）	23	分析・結果指導（個別指導）
9	研究計画の作成（研究資料・データ）	24	考察指導（研究目的に沿った考察）
10	研究計画の作成（論文執筆）	25	考察指導（学生同士の批判的検討）
11	データ収集指導（調査法等）	26	考察指導（まとめ）
12	データ収集指導（質問紙法等）	27	論文執筆指導（脚注等の体裁）
13	中間報告にむけた個別指導	28	論文執筆指導（論文の構成）
14	中間報告にむけた個別指導	29	論文執筆指導（引用・参考文献）
15	卒業研究論文中間報告	30	卒業研究論文総括

【履修上の注意事項】

1年という期間を有効に使うためにも、テーマ設定から卒業研究論文の執筆、完成までの計画をしっかりと立てて取り組むこと。他者の研究にも関心をもちお互いが高めあいながら完成を目指すこと。事前に個人学習を通してレジュメを作成し、講義・指導後にしっかりと復習し執筆を進めること

【評価方法】

卒業研究論文執筆過程での取り組み（40%）と、完成後、副査の意見を含めて（60%）総合的に評価する。

【テキスト】

必要であれば適宜紹介・配布する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。